

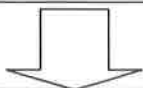
第6学年 国語科学習指導案

日時 平成27年 9月18日(金) 6校時
児童 男17名 女12名 計29名
指導者 皆川 洸士

- 1 単元名 筆者のものの見方をとらえ、読み取ったことや感じたことを表現しよう
教材名 『鳥獣戯画』を読む/この絵、わたしはこう見る(光村図書 6年)
補助学習材 「おはなし名画シリーズ 鳥獣戯画」「ひらめき美術館」他

<主となる指導事項>

- ◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。 【C読むことウ】
- ◎事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 【B書くことウ】



<つきたい力>

- 絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながら読む力
- 事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりする力

<単元を貫く言語活動>

絵と文章との関係を意識して、自分の選んだ絵の批評文を書く

2 単元について

(1) 児童について

これまで学習してきた説明的な文章では、第5学年の「天気を予想する」/「グラフや表を引用して書く」において、筆者の論の進め方を参考にしながら意見文を書く活動を行った。読み手を納得させるためにはどのように論をすすめれば良いのかを学び、自身の意見文に生かすことができた。また、第6学年の「笑うから楽しい」/「時計の時間と心の時間」では、筆者の主張と自分の体験を関連づけて考え、事例を挙げて自分の考えを発表する活動を行った。本文を自分の体験と関連付けて読み進めたり、筆者が例示している実験を試してみたりしたことは、筆者の考えや主張を肯定、または否定するために大切であるということを知ることができた。また、自分自身の体験をもとにした、「時計の時間と心の時間」についての意見文を書き、友だちと読み合っ感想を交流することができた。

日常においては、児童会や委員会の活動の中で図表を作成して説明したり、自分の考えを話す場面において、身近な出来事や自身の体験などを例示しながら話したりする姿も見られる。また、話し合い活動などでは、頭括型や双括型などの話し方を用いて、効果的に伝えるような姿も見られるようになってきた。しかし、実体験や客観的な根拠をもとにした主張とは違い、「ものの見方」は、個人の感性によるところが大きいことや、どのような言葉や表現を用いれば相手にうまく伝わるかといった難しさが予想される。

国語科意識調査をみると、読書や調べ学習、新聞づくりなどの主体的な学びが好き、得意である児童が多い。一方で、作文や話し合い活動に対して苦手意識をもつ児童が多い。

そこで、本単元では、自分の選んだ絵の批評文を書き、友達や校内の人に見てもらおうという言語活動を設定する。筆者の着眼点や言葉の使い方などを参考にしながら書き方を学び、批評文としてまとめさせたい。

(2) 教材について

『鳥獣戯画』を読むは、「鳥獣戯画」に対する筆者の批評が書かれており、絵の内容と対照させながらその素晴らしさを伝える文章になっている。また、書き出しや文末の表現や絵の見せ方など表現上の工夫も多数見られ、読み手を引き付けるような工夫がされている。また、「鳥獣戯画」は漫画やアニメの祖であることや昔の人々が大切にしてきたことについても説明されており、「鳥獣戯画」の歴史的価値や意義を読み手に伝える内容になっている。

「この絵、わたしはこう見る」は、上記の単元を活用しながら、絵画作品を対象にして批評文を書くことがねらいである。構想の仕方や書くための手順、表現の例などが多数提示され、それを参考にしながら学習を進めることができる内容になっている。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として批評文を書くことを位置付けた。それにより2次では、自分で絵の批評文を書くために筆者のものの見方や感じ方、文章表現の効果、主張について捉えるという学習の目的が明確になる。つまり、絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながらか読む力をつける学習過程であると考えられる。

第1次では、身近な例を示しながら批評文とはどのようなものか、イメージをもつことを大切にしている。例えば、子供たちはおすすめの本の紹介文を書いたり日常生活の中で映画や本の批評などを読んだりした経験はあると思う。初めにその経験を想起させたり指導者の作成したモデル文を読ませたりしながら、それらが批評文であることを理解させる。また、自分の選んだ絵の批評文を書いて交流するという単元のゴールを設定し、それに向けた学習の進め方を確認する。

第2次では、教材文『『鳥獣戯画』を読む』を読みながら、批評文の内容や表現の工夫、筆者の主張などについて捉えていく。その際に、自分の批評文に生かしていくという視点を大切にしながら学習をすすめていきたい。そこで批評文の構成表を活用し、教材文で学んだことや自分の批評文に生かしたいことなどを書きためていく。そうすることで、自分の批評文の構想を具体的にもち、3次で批評文を書く際にも役立てることができると考えた。

第3次では、これまでに書いてきた批評文の構成表をもとにして400字程度の批評文を書く活動を行う。その中で、教科書の内容を参考にしたり、グループ学習で助言し合ったりしながら言葉の使い方や表現方法、論のすすめ方などについて改善していく。出来上がった批評文は相互に読み合っ感想を交流した後、校内に掲示をすることで、多くの人に読んでもらい学習の振り返りとともに児童がこれまでの学習への達成感をもつことができるようにしたい。

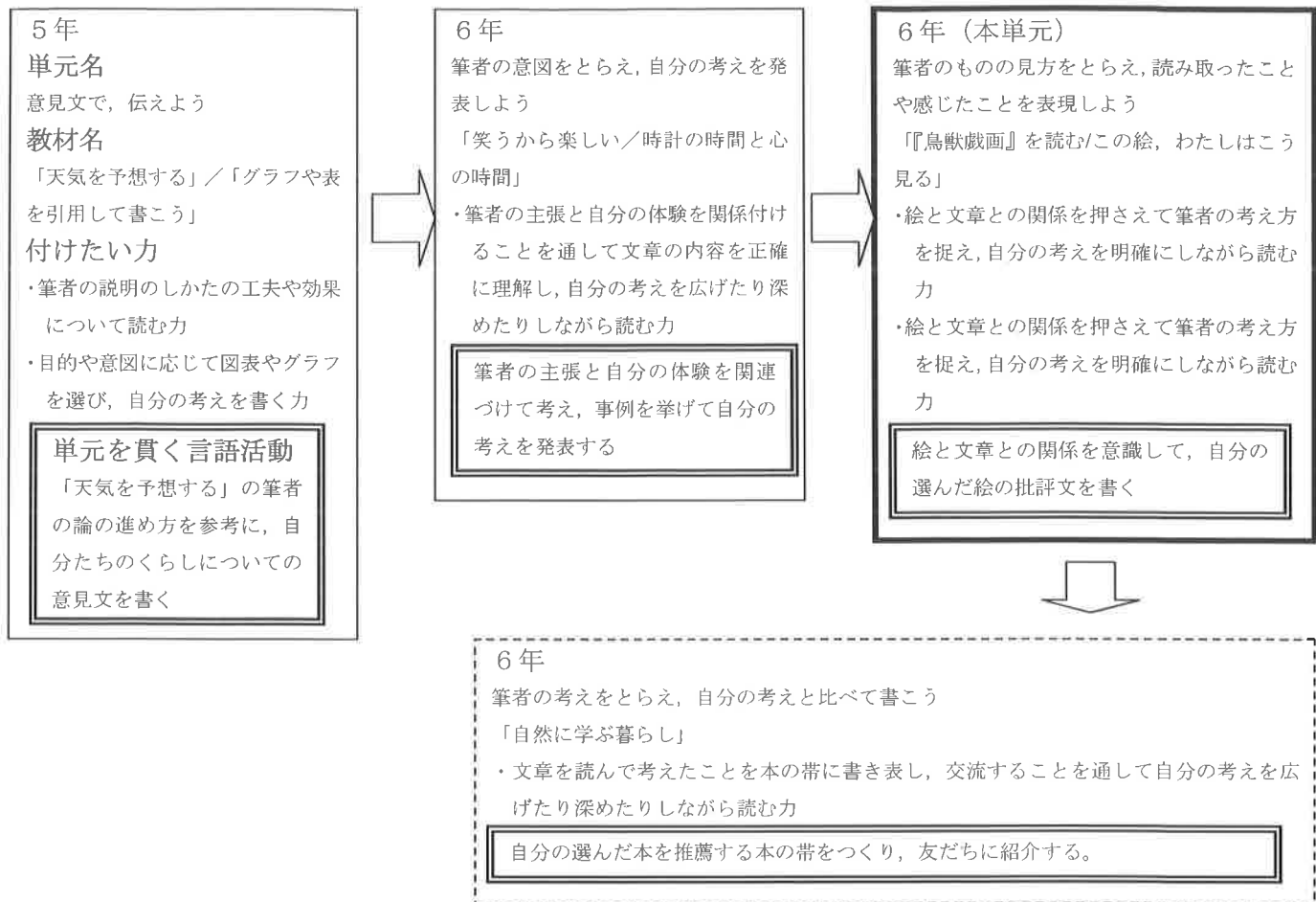
3 単元の指導目標

	指導目標
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者のものの見方に興味を持ち、自分の見方と比べて読もうとしている。 ・相手意識や目的意識をもって表現を工夫し、絵の批評文を書こうとしている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と文章との関係を押さえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解することができる。

4 単元の評価規準

	評価規準
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者のものの見方や感じ方に興味を持ち、自分の見方と比べて読もうとしている。 ・相手意識や目的意識をもって表現を工夫し、絵の批評文を書こうとしている。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想、意見などを区別するとともに、効果的な表現方法を用いながら絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりして、批評文を書いている。(ウ)
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と文章との関係を手がかりに筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の批評文に生かす視点から、自分の考えを明確にしながらか読もうとしている。(ウ)
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解しようとしている。(イ(オ))

5 系統的な学習の流れ



6 単元構想（全10時間）

次	時間	ねらい ・ 主な学習活動	評価規準	指導上の留意点
第1次	①	単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。 ・モデル文を読むなどして批評文の概要を知る。 ・絵の批評文を書くための学習（単元のゴール）であることを知る。 ・『鳥獣戯画』の絵から読み取ったことを想像して紹介し合い、それぞれの見方が違うことを実感する。	【関】 筆者のものの見方や感じ方に興味を持ち、自分の見方と比べて読もうとしている。 相手意識や目的意識をもって表現を工夫し、絵の批評文を書こうとしている。 [観察]	・批評文とはどのような文なのか、実際の絵とモデル文を紹介することで学習への見通しをもたせる。 ・批評文を書くという学習のゴールをもとに、どのような学習をすすめればよいか考えさせる。
	②	・どんなことをどのように書けば批評文になるのかを『鳥獣戯画』を読む」を学習していくことを通して考えていくことを知る。 ・学習計画を立てる。 ・筆者は「鳥獣戯画」をどのように見ているか、自分の思いと比べながら『鳥獣戯画』を読む。		

<p>第2次</p> <p>活用</p> <p>活用</p> <p>活用</p> <p>活用</p> <p>活用</p>	③	<p>『鳥獣戯画』を読むの筆者は、「何が」「どのように」すばらしいと感じ表現しているのかを読み、筆者のものの見方をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの段落の内容をとらえる。 ①絵の描写 ②説明と感想 ③「鳥獣戯画」の説明 ④絵巻物の仕組み ⑤⑥⑦絵の批評 ⑧絵巻物の歴史的価値 ⑨筆者の主張 筆者は、何を話題の中心にしているのかをとらえる。 自分の選んだ絵の印象や説明を「批評文の構成表」に記入する。 	<p>【読】『鳥獣戯画』を読むの内容をとらえている。 [発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』を読むを序論、本論、結論の大きく三つに分けさせる。 各段落に書かれていることを文章構成表に整理させる。 序論部分には、絵から受ける印象とどのような絵なのかの説明が書かれていることを確かめさせる。 自分が批評文を書く絵を決めて、どのような内容にするかを整理するために、「批評文の構成表」に記入させる。
	④ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 絵に対する、筆者のものの見方や感じ方がわかる部分を見付ける。 筆者は、絵のどのようなところに着目しているか話し合う。 三匹の応援蛙のポーズと表情について、自分の見方や感じ方を書く。 	<p>【読】筆者の着目している点と、その見方や感じ方を捉えている。 [発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 蛙と兎が描かれた場面から、絵のどこに着目し、どのように感じているのかを確かめさせる。 筆者は、着目する点を明らかにしてから、自分の見方や感じ方を述べている点に気付かせる。
	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ絵について、自分の見方や感じたことを「批評文の構成表」に記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の批評文にも引用したいことや自分の見方や感じ方について、構成表に記入させる。
	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 書き出しや文末表現、語り方などの表現の工夫に気付き、その効果について考える。 漫画やアニメの例示など、他の表現の工夫に気付き、その理由を考える。 <p>自分の批評文に生かしたい表現の工夫を「批評文の構成表」に記入する。</p>	<p>【読】筆者の表現の工夫とその効果、意図を捉える。 [発言・記述]</p> <p>【言】文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解している。 [発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の表現の工夫に気付かせ、読み手として感じるその効果や、書き手側の意図について考えさせる。 自分の批評文に生かす視点から、構成表に記入させる。
	⑦	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の批評内容を確認する。 筆者の批評について自分の考えを持ち、交流する。(共感、感心、疑問、批判など) 他の批評文の批評について自分の考えを持ち、交流する。 自分の批評文での主張部分を、「批評文の構成表」に記入する。 	<p>【読】『鳥獣戯画』を読むの筆者の批評について自分の考えを持っている。 [発言・記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』に対する様々な見方(批評)があることを紹介し、自分の考えをもつことができるようにする。 これまでの構成表の内容をもとに主張部分を考え、記入させる。
	⑧	<p>自分のものの見方を表現した批評文を書き、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き出しの例や記述例の工夫を読む。 第2次でまとめておいた「批評文の構成表」を参考にして批評文の下書きを書く。 「批評文の構成表」に記述したことと自分の下書きに相違がないか、字の間違がないか確かめる。 	<p>【書】事実と感想、意見などを区別するとともに、効果的な表現方法を用いながら絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりして、批評文を書いている。 [記述]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「批評文の構成表」をもとに、下書きを書かせる。 モデル文や参考として補助学習材を活用させる。
	⑨	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで読み合い、絵から読み取ったことと自分の考えを区別して書いているか確かめる。 表現の工夫などを助言し合い修正する。 下書きを参考にして清書する。 		<ul style="list-style-type: none"> 友だちの表現の良いところに注目させ、参考にさせる。
⑩	<ul style="list-style-type: none"> 友達と批評文を読み合い、絵のどこに着目し、どのように感じたか話し合う。 学習してどのような力が身に付いたか考える。 多様なものの見方や考え方を受け入れることが自分の考えを深めたり広げたりすることに気づく。 		<ul style="list-style-type: none"> 批評文を読み合い、表現の良いところや批評について感じたことを交流させる。 	
<p>活用</p> <p>第3次</p>				

7 本時の指導（4／全10時）

(1) ねらい

筆者のものの見方や感じ方を捉えることができる。

(2) 展開

階段	・主な学習活動 課題とまとめ 中心発問 ○児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価規準
つかむ5分	1 学習課題を確認する。 筆者のものの見方や感じ方をとらえよう。	・本論部分の中から、筆者はどのようなところに着目し、どのような見方や感じ方を書いているかを考えることで、自分の批評文にも活用していく視点をもたせる。
ふかめる25分	2 学習課題を解決する。 (1) 絵に対する、筆者のものの見方や考え方がわかる文を見付ける。 蛙の口…激しい気合いがこもっていることがわかる。 兎の背中や右足の線…勢いがある、絵が止まっていない。動きがある。 兎の表情…ほんのちょっとした筆さばきだけで見事にそれを表現している。たいしたものだ。 応援蛙…ポーズと表情もまた実にすばらしい。 筆者は、どのようなところに着目して見方や感じ方を書いているのでしょうか。 (2) 筆者は、絵のどのようなところに着目して見方や感じ方を書いているか話し合う。 ○表情や線の描き方に着目して、その特徴や良さを書いていると思う。 ○絵の中でも、特に注目してほしい部分に着目し、素晴らしいと思った点を書いていると思う。 3 学習のまとめをする。 筆者は、部分の表情や線に着目してその良さや素晴らしさを書いている。	・家庭学習等で、筆者のものの見方や感じ方がわかる部分に線を引かせておく。 ・蛙と兎が描かれた場面から、絵のどこに着目し、どのように感じているのかを確かめさせる。 ・絵のどの部分のことを筆者は述べているのか、絵と文を対応させながら読む視点を与える。 ・筆者は、着目する点を明らかにしてから、自分の見方や感じ方を述べている点に気付かせる。 ・自分で考えた後、全体で意見を交流させる。 ・手立て…蛙の口、兎の背中、表情に着目したのはなぜか考えさせる。 ◇筆者の着目している点と、その見方や感じ方を捉えている。[発言・記述] ・筆者は、どのようなところに着目して、どのような見方や感じ方を書いているか、自分の言葉でまとめさせる。
ひろげる15分	4 三匹の応援蛙のポーズと表情について、自分の見方や感じ方を書く。 ○両手をあげている蛙は、相撲の行司のようで、「蛙の勝ち！」と言っているようだ。 ○座って手を広げている蛙は、勝ったことを喜んでいるにちがいない。 ○下を向いている蛙は、兎の大きな転び方がおもしろかったのだと思う。 5 学習を振り返る。 ・学習計画表に今日学んだことやわかったことを記入する。 6 次時の学習内容を確認する。	・応援をしている蛙の絵を見て、その絵に対する見方や考え方を書く。(ワークシート) ・三匹のうち、自分が書きやすいと思うものから書かせる。 ・言葉が思いつかない児童には、まず着眼点を考えさせ、その部分について自分はどう思うのかを考えさせる。 ・様々な見方があるよ。友達の見方を肯定的にとらえ、「そんな見方があったのか」というような気づきを大切にさせる。 ・学習をしてわかったことや、自分の批評文に生かせるようなことについて振り返らせる。 ・次時は、自分の選んだ絵について、ものの見方や感じ方を考えることを伝える。

8 板書計画

筆者のものの見方をとらえ、読み取ったことや感じたことを表現しよう
『鳥獣戯画』を読む 高畑勲

諷 筆者のものの見方や感じ方をとらえよう。

筆者のものの見方・感じ方

蛙が 兎を投げ飛ばした絵を提示

蛙の口
激しい気合いがこもっていることがわかる。
兎の背中や右足の線
勢いがあって、絵が止まっ
ていない。動きがある。
兎の表情
ほんのちよつとした筆さ
ばきだけで見事にそれを
表現している。たいした
ものだ。
応援蛙
ポーズと表情もまた実に
すばらしい。

筆者は、どのようなところに着目して見方や感じ方を書いているか

・表情や線の描き方に着目して、その特徴や良さを書いている。
・特に注目してほしい部分に着目し、素晴らしいと思った点を書いている

③ 筆者は、部分の表情や線に着目して、その良さや素晴らしさを書いている。

三匹蛙の絵を提示

両手をあげている蛙は、相撲の行司のように「蛙の勝ち！」と言っているみたいだ。

9 モデル文

猿のいる熱帯風景 ルソー



「キイキイキイ!」「ざわざわ」動物の鳴き声や木々がゆれ動く音が今にも聞こえてきそうなジャングル——。この絵には、ジャングルに住む生き物たちの日常が生き生きと描かれている。この絵は、フランス人の画家であるルソーが描いた『猿のいる熱帯風景』という絵だ。

まずは、手前に座っている猿の表情を見てごらん。周りの様子をゆったりと見守るような余裕が感じられないだろうか。手が長い様子を見ると、チンパンジーなのかもしれない。今度は、真ん中に描かれている猿の描き方を見てみよう。毛を一本一本丁寧に描いていることがわかる。白と黒の色の使い方もとても上手だ。後ろで木にぶら下がっている猿たちは、「トン、トン、トン」とリズム良く木を渡っているような動きが感じられる。逆さまになって渡っている猿は、次の枝に

手を伸ばしているところなのだろう。ジャングル全体をおおう草木は、葉の一本一本が丁寧に描かれており、まるで本物のように見える。

この絵には、見る人をぐっと引き付けてしまうような力がある。それに、動物たちが生き生きとしており、今にも動き出しそうだ。だから、『猿のいる熱帯風景』は見る人を絵の世界に引き込んでしまう魅力的な作品なのだ。

10 補助学習材

	本の名前	著者	出版社
1	おはなし名画シリーズ 鳥獣戯画	辻 推雄	博雅堂出版
2	おはなし名画シリーズ ブリュールと村人たち	辻 推雄	博雅堂出版
3	おはなし名画シリーズ 若沖のまいごの象	辻 推雄	博雅堂出版
4	おはなし名画シリーズ 北斎の富士	辻 推雄	博雅堂出版
5	ゴッホ、ミレーとバビルゾンの画家たち	佐々木 英也	飯田画廊2004
6	影絵	水谷邦照	文溪堂
7	絵のあるまちバルセロナ	森枝雄司	福音館書店
8	美術たんけん隊 天才ピカソのひみつ	古山 浩一	福音館書店

9	謎解き浮世絵叢書 月岡芳年 和漢百物語	渡邊 隆男	二玄社
10	琳派美術館 3 抱一と江戸琳派	若葉 正	集英社
11	ひらめき美術館 第1巻	結城 昌子	小学館
12	ひらめき美術館 第2巻	結城 昌子	小学館
13	ひらめき美術館 第3巻	結城 昌子	小学館
14	写楽 in 大歌舞伎	浅野 秀剛	東京美術
15	はじめての美術鑑賞	ロジャー・テイソズ	あかね書房
16	みつけた！絵のなかで動物たちがかくれんぼ	ルーシー・ミルズウェイト	フレーベル館
17	アトリエから戸外へ 印象派の時代	アントニー・メイソ	国土社
18	子どものうちから知っておきたい西洋美術を築いた画家20人の生涯	チャーリー・エアーズ	講談社
19	世界のアート図鑑	レベッカ・ライオンズ	ポプラ社
20	フランス発 こどもアートシリーズ3	DADA 日本編集部	朝日学生新聞社
21	フランス発 こどもアートシリーズ7	DADA 日本編集部	朝日学生新聞社
22	なぞとき美術館	荒井 健之輔	フレーベル館
23	名画のなかの世界 描かれた四季	若桑みどり	小峰書店
24	名画のなかの世界 描かれた遊び	若桑みどり	小峰書店
25	名画のなかの世界 描かれた自然	若桑みどり	小峰書店
26	名画のなかの世界 描かれた旅	若桑みどり	小峰書店
27	名画のなかの世界 描かれた食べもの	若桑みどり	小峰書店
28	名画のなかの世界 描かれた動物たち	若桑みどり	小峰書店
29	名画のなかの世界 エンターテイナー	若桑みどり	小峰書店
30	ゴッホの絵本	結城昌子	小学館
31	モネの絵本	結城昌子	小学館
32	ピカソの絵本	結城昌子	小学館
33	ルノワールの絵本	結城昌子	小学館
34	ルソーの絵本	結城昌子	小学館
35	スーラの絵本	結城昌子	小学館
36	シャガールの絵本	結城昌子	小学館
37	ゴーギャンの絵本	結城昌子	小学館
38	クレーの絵本	結城昌子	小学館
39	マティスの絵本	結城昌子	小学館
40	ローランサンの絵本	結城昌子	小学館
41	モディリアニの絵本	結城昌子	小学館
42	ミロの絵本	結城昌子	小学館